

はじめに言があった

ヨハネ1章1-5、9-14節

初めに言（ことば）があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は、初めに神と共にあった。万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。

その光は、まことの光で、世に来てすべての人を照らすのである。言は世にあった。世は言によって成ったが、世は言を認めなかった。言は、自分の民のところへ来たが、民は受け入れなかった。しかし、言は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。この人々は、血によってではなく、肉の欲によってではなく、人の欲によってでもなく、神によって生まれたのである。

言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。

説教

初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。ヨハネ1:1

クリスマスをお祝いする主日にヨハネ福音書の冒頭を朗読できることは説教者にとっておおきな喜びです。イエスのご誕生を真正面から、大上段から語るヨハネのことばは私たちにとっておおきな救いになります。

もっとも、難しくてなにをいっているのかよくわかりません。

キーワードは「神」「言（ことば）」「光」の三つです。「神」はそのままでの意味で、神といえば神様です。つぎの「言」はキリスト教独特の意味になるのですがイエス・キリストをいっています。ヨハネ福音が語る「言」とは日本語でいうことばという意味ではなく原語ではロゴスとなっています。ロゴスには論理とか概念とかすこし難しい意味が含まれています。キリスト教で

の意味はロゴスといえばキリストを指します。さいごの「光」ですが、これもキリスト教解釈では聖霊を意味します。

言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。（ヨハネ1：4）

ヨハネ福音では4節でこのように光について語ります。「ことば=ロゴス=キリスト」の内に命があって、その命は人間を照らす光だ、といます。命と光は一緒のようです。キリスト教では聖霊の照らし、聖霊の照明ともいいますが、光は聖霊を象徴的に指し示します。

キリストは光みたいなものですが、光（聖霊）そのものじゃないようです。だんだんややこしくなってきますが、それもそのはずでこの福音箇所から三位一体という教理が導き出されました。

さて、おしゃべりしている内にいったいなにがおめでたいのかわからなくなってきました。ヨハネはこう語ります。

言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。（1:14）

キリストが肉=人として人間社会に宿られた、来てくださった、このことがおめでたい、だからメリークリスマスなんです。イエスさまご誕生おめでとうございます。あたりまえですがこれがクリスマスです。

先週、近くの保育園でクリスマス会がありました。飼い葉おけに眠る赤ちゃんのイエスの聖劇を保育士さんたちが演じていました。子どもたちは静かにその劇に見入っていました。さて、宴もたけなわ、きょうのクライマックスはサンタさんの登場です、子どもたち一人ひとりが壇上でサンタさんからプレゼントを手渡しされたそうですが、みんな大泣きしていたそうです。サンタさんは2メートル近くある白人の方でサンタ服を着ているのですが幼児たちはおっかなかったのでしょう。

テレビを見ていたら1951年にフランスのある教会がサンタクロース有罪判決をくだしたそうです。クリスマスをおざなりにしてサンタだ、プレゼントだと浮かれているのがけしからんと思った教会が、悪いのはサンタクロース

だとばかりにサンタを有罪にし、サンタの人形を火あぶりにしたそうです。テレビではレヴィ・ストロース（人類学者）がこの事件に着目して論文を書いたことを紹介していました。彼はイエス生誕祭はキリスト教がローマやケルトの冬至祭りをキリスト教に取り込んで儀礼化したものだといいます。ケルト人は冬は生命力が弱まる季節であり死者が生きている人を襲う季節だと信じ、襲ってきた死者たちに贈り物をしてなだめ死の国に帰ってもらうための祭りをおこなっていました。それを冬至にイエス・キリストが誕生することで光をもたらすという風にキリスト教会が解釈して12月25日をイエス生誕として祝うことになったといいます。しかし、祭りの意味合いもキリスト教が狙ったこの世の光としてのイエス生誕を静かに祝うという形からだんだんとはなれ、サンタのプレゼントが目玉の狂騒の状態になったしまった。この事件の背景にはこれがあるとレヴィ・ストロースはいいます。

保育園でサンタを見て泣く子どもたちとても素直です。クリスマスの主役はサンタさんでもプレゼントでもなくイエス・キリストです。飼葉おけに眠るイエスを見て泣く子どもはいません。そうとはいってもプレゼント抜きではおさまりもつかないので、来年の保育園のクリスマス会はサンタ抜きのプレゼント交換のやり方を考えてみていいかもしれません。わたしたちもクリスマス商戦とイエスの生誕祭を別のものとして穏やかに受け入れることができますように。
